プルーンの今後の栽培管理について

令和3年8月19日

佐久農業農村支援センター

１　降雨の影響によるプルーンの裂果発生

（１）降雨の状況

　全国的に前線が停滞した影響により、各地で大雨による土砂災害が発生している。佐久管内のおいても、８月13日～15日の３日間にわたる連続した降雨（佐久市アメダス降水量：13日：36㎜、14日：122.5㎜、15日：54㎜）の影響でプルーンの一部品種で裂果が見られた。

（２）発生品種

主に収穫直前である「サマーキュート」と「くらしま早生」等の中生種に裂果が見られた。裂果は、果柄部から始まっており、主に赤道部までの果実上部付近に目立っている。

収穫直前で、軟化が始まった果実表面に直接、大量の雨を受けたことによるものと考えられる。

２　今後の栽培管理

（１）裂果した果実の取り扱い

ア　裂果した果実の取り扱いは、生産出荷団体等の指導に従う。

イ　裂果が著しい果実は、腐敗してくるため、取り除き、土中に埋めるなどの処理を行ない、　そのまま放置しない。

ウ　定期防除は、天候を見計らって遅れないように散布する。

（２）裂果防止のための雨よけの設置

ア　主力の「サンプルーン」や「オータムキュート」等、晩生種の雨よけ被覆の時期を迎えている。曇天・降雨の影響で、果実の成熟が進んでいることも予想されるので、遅れないように早めに設置する。

イ　大雨直後の高温により収穫期に果実にしわが寄る「しなび果」（下記補足参照）が発生することがある。特に降雨直後の被覆による高温には注意する。

（３）適期収穫等

ア　降雨の影響で、糖度上昇は平年よりやや遅れているが、今後の気象条件により急激に熟期が進む可能性があるので、食味を確認して適期収穫を行う。

イ　「サンプルーン」では、雨よけ被覆により完熟した果実の収穫を心掛ける。また、収穫が遅れると、「しなび果」を助長することがあるので注意する。

【補足】しなび果について

１　特徴

　収穫期に果実の果柄部（こうあ部）付近から赤道上部に「しわ」が寄り、「しなび果」となる。完熟した果実に発生する。

２　発生品種

　　長野県内では、過去に「サンプルーン」、「ローブドサージェン」、「ベイラー」、「くらしま早生」、「シュガー」、「サンタス」、「くらしまプルーン」などに発生した報告がある。

３　発生年の特徴的な気象

　　収穫直前の品種で発生が見られる。特に、果皮が軟化してきた果実表面が大雨の影響で濡れた直後に高温なった年に発生している。佐久においては、平成20年に、「サンプルーン」で8月の大雨後に一転、高温になった年に発生した（表１）。また、雨よけ被覆を降雨直後に行った園で発生が多かった。

表１　佐久管内における過去のしなび果発生時の気象条件および発生状況

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 発生年 | 気象条件 | 発生状況 |
| 平成20年 | ・８月28日～30日で109.5ｍｍの連続した降雨（佐久市アメダス）・多雨から一転、９月は高温になった | 「サンプルーン」で多発 |



* 平成22年度　うまくだ中央講習会資料より抜粋